

平成29年度岡山県農林水産総合センター畜産研究所試験研究課題評価結果票

<事前評価>

- 総合評価凡例 5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当
 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い
 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要

番 号	29-事前-1						
課題名	ダメ堆肥をどうにかする技術の開発堆肥						
課題の概要	家畜排せつ物の処理において、水分調整を失敗するなどして嫌気性発酵が進行した堆肥化物（以下、ダメ堆肥）からは、大量の悪臭原因物質が発生し、苦情の原因の一つになっている。そこで、ダメ堆肥ができる条件を把握し、ダメ堆肥の適切な再処理の方法を確立することで、家畜排せつ物の適正な処理と良質な家畜ふん堆肥のさらなる利用の促進を図る。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性		5人	1人			3.8
	有効性		3人	3人			3.5
	効率性・妥当性		3人	3人			3.5
	総合評価		5人	1人			3.8
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ダメ堆肥を再処理するというテーマは十分実施に値するが、ダメ堆肥といっても恐らく多様である。岡山県内のダメ堆肥と発生要因を明確にするとともに、実際にそれらを再処理する試験を検討されたい。 畜産研究所の研究で再処理の効果が見いだせた場合、畜産現場にて実証試験を実施してほしい。基本は適切な堆肥化であるのでダメ堆肥が出来る要因の把握を十分に検証していただき、堆肥化マニュアル等に新たな視点を加えられるぐらいの成果を期待します。 ダメ堆肥の再処理技術の開発により、現状のダメ堆肥を通常堆肥化を行い、ダメ堆肥が出来る要因を分析することで、ダメ堆肥の発生予防にもつながるため、非常に意義ある課題と考える。 岡山県の酪農の生産力向上のため、増頭を期待しているが、糞尿等、環境問題については、多分な不安もある。「ダメ堆肥の再処理技術を確立すること」の研究成果が得られ、その技術が普及する事を望む。 この課題は、畜産経営者にとっても近隣の住民にとっても大きな課題の一つである。悪臭の現場での改善が大切である一方、商品そのものが、どのような過程で生産されたのか、消費者の意識改革も必要。ダメ堆肥が良質の堆肥となり、安価で手に入り、庭や菜園の植物がよく育つとなれば住民と畜産農家の関係もよくなると期待している。 						

平成29年度岡山県農林水産総合センター畜産研究所試験研究課題評価結果票

<事後評価>

総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

番 号	29-事後-1						
課題名	ジャージー牛の特性を生かした自給飼料多給型の牛肉生産技術の開発						
課題の概要	脂肪交雑に拘らない、ジャージー種の特性を生かした美味しい牛肉の低コスト生産技術を開発・商品化する。 また、イネWCSなど、地域の自給粗飼料を活用した肥育技術を確立する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度		2人	4人			3.3
	有効性(効果)		2人	4人			3.3
	有効性(目的以外の成果)		2人	4人			3.3
	効率性・妥当性(費用対効果)		2人	3人	1人		3.2
	効率性・妥当性(計画)		2人	4人			3.3
	成果の活用・発展性		4人	1人	1人		3.5
	総合評価		3人	3人			3.5
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地実証とともに実施した課題であり、蒜山酪農農業協同組合でイネWCSの利用が進むことが期待できる。食味評価も消費者とともに実施しており、岡山県および畜産研究所の関わりを一般県民にアピールしたことも高く評価できる。県知事もこの取り組みを改めて認識されたようなので、今後も現場との関係を維持してジャージー製品の特産化を進めていただきたい。 ・ 消費者があえてジャージー牛肉を選択するような差別化(戦略)を明確にし、ブランド力を高めていっていただきたい。 ・ 現在の赤身・健康志向に対応し、地域資源(ジャージー牛とイネWCS)を活かす適切な試験だったと感じた。今後は、この成果を活かし、肥育期間の短縮や枝肉重量の増大等、コスト削減となる飼育技術の向上に努め、消費者に向けた価格設定の実現や、酪農家の所得向上につながってほしい。 ・ 地域資源を活用した新たなブランド化についての試験であるが、内容的には適切であると考え。ブランド化となれば、今後のアフターフォローも重要になると思われるため、引き続きフォローが必要と感じる。 ・ 蒜山ジャージーのWakuWakuプロジェクトで、ジャージー牛肉料理のお披露目会があった。蒜山へ来てジャージー肉を食べてもらいたい!という地域活性化が目的の研究であり成果は得られたと思うが、「村おこし」につながる説明も必要である。 ・ 自給飼料を与えることが肉質や栄養価に良い結果であったことは朗報。商品化に向けて飲食業者の経営支援にもつながるよう、消費者に分かりやすい情報提供をされることを望む。SNSで予想外に広がる可能性もあるので蒜山地域のブランド化を実現してほしい。WCSの給与は、自給率向上効果もあり普及推進を期待しています。 						

番 号	29-事後-2						
課題名	麦ホールクロップサイレージ（WCS）の調整と利用技術の確立						
課題の概要	<p>イネWCSは転作飼料作物として広く普及してきたが、今後さらなる水田の有効利用を図るためには、水田裏作である麦WCSの推進が有効な手法と考えられる。</p> <p>麦WCSはイネWCS用収穫機を用いることにより良質な発酵品質と長期保存が可能となると考えられることや、ダイレクトカット調製することにより耐天候性が高く、低労力での作業が可能となるなど利用価値は高いと考えられるが、イネWCS用収穫機を用いた麦WCS調製事例は少なく、本県では収穫適期、発酵品質、保存性、牛の嗜好性、給与実証などの研究は行われていないため、麦WCS特有の問題を明らかにし栽培調製利用法を確立する。</p>						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成度		1 人	5 人			3. 2
	有効性（効果）			5 人	1 人		2. 8
	有効性（目的以外の成果）		2 人	4 人			3. 3
	効率性・妥当性（費用対効果）			5 人	1 人		2. 8
	効率性・妥当性（計画）			6 人			3. 0
	成果の活用・発展性		1 人	3 人	2 人		2. 8
	総合評価		1 人	5 人			3. 2
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・採食量、乳量、乳成分を泌乳試験まで実施して調べ、ライ小麦WCSが他よりも劣ることを示したのは普及前の取組として重要である。このような情報を提供できるのは公設試だけであり、有効性等が普通という評価であっても取組自体の価値は高い。消費者にアピールすることは難しいが、生産者の声を消費者および一般県民に伝えることができればベターであろう。 ・現場での導入に向けた技術指導の取組に期待したい。 ・耕畜連携が推進されることを期待します。 ・大麦WCSとイネとの周年作体系が出来ることについては、耕種農家の所得向上に寄与するものと考えられる。 加えて、畜産農家サイドでの利用普及を考えて頂きたい。 ・畜産研究所内と現地（一般農家）での収量の違いが大きく、その要因が、地力によるものと説明があった。地力について今後も研究し、より良い土壌作りも目指して欲しい。期待した成果は得られたと思う。 ・コントラクターの経営安定化を図ることは飼料自給率を上げていく事に不可欠であることは理解できますが、稲作農家の高齢化や後継者不足を考えると裏作としての麦を植える農家が増えるとは考えにくい。作付けをする農家が増えるための策が必要となるのではないかと思います。 						

番 号	29-事後-3						
課題名	「おかやま四ツ☆子牛」認定率向上を目指した子牛生産技術の確立						
課題の概要	<p>人工哺乳牛の発育を改善し、認定率を向上させるため、分娩前の母牛への栄養補給方法(増し飼い)を検討し、生時体重が大きく、疾病に強い子牛を生産する技術を検討するとともに、哺育期を良好な状態で発育させるために、代用乳及びスターターの給与方法を見直し、初期発育の優れた哺育方法を検討する。</p> <p>さらに、育成期の子牛については、濃厚飼料に頼らない粗飼料を中心とした高栄養型飼料給与方法を検討し、自然哺乳と同等以上の発育を目指す</p>						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成度		3 人	3 人			3. 5
	有効性 (効果)		1 人	5 人			3. 2
	有効性 (目的以外の成果)		2 人	4 人			3. 3
	効率性・妥当性 (費用対効果)		2 人	3 人	1 人		3. 1
	効率性・妥当性 (計画)		1 人	5 人			3. 2
	成果の活用・発展性	1 人	3 人	1 人	1 人		3. 7
	総合評価		3 人	3 人			3. 5
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・おかやま四ツ星子牛の生産技術改善を目指した課題であり、具体的な提案がなされていることから、成果の活用・発展性も高いと考えられる。おかやま四ツ星子牛というネーミングも、次第に知られてきている。継続、発展的な取組みを期待したい。 ・マニュアルに基づく指導、普及活動により、さらなる認定率の向上に期待する。 ・検証結果が予想された範囲で、より踏み込んだ試験区が欲しかった。 ・現状の子牛価格が高値で推移する中で、購買者が求める「おかやま四ツ☆子牛」認定率向上については、岡山子牛市場の評価を高めるうえでも、繁殖生産者の所得向上にもつながり非常に価値ある課題と認識している。今後は普及活動が重要であり、力を入れて頂きたい。 ・技術相談、現地指導の実施状況において和牛関係は乳牛関係の倍以上の件数がある。それだけ和牛部門では求めている事も多く指導も必要とされている。成果を普及し岡山の和牛農家をもっと元気にしていただきたい。マニュアルは農家が必要とするものとなっている。 ・「おかやま四ツ☆子牛」の生産技術については、目的に沿った効果が挙げられている。マニュアルは、写真、レイアウト、コメントも見やすく、多くの肥育農家に伝える効果がある。優れた技術や研究成果も伝え方次第で、社会に広がり、認められる為、費用対効果も考慮し伝え方を工夫してほしい。 						